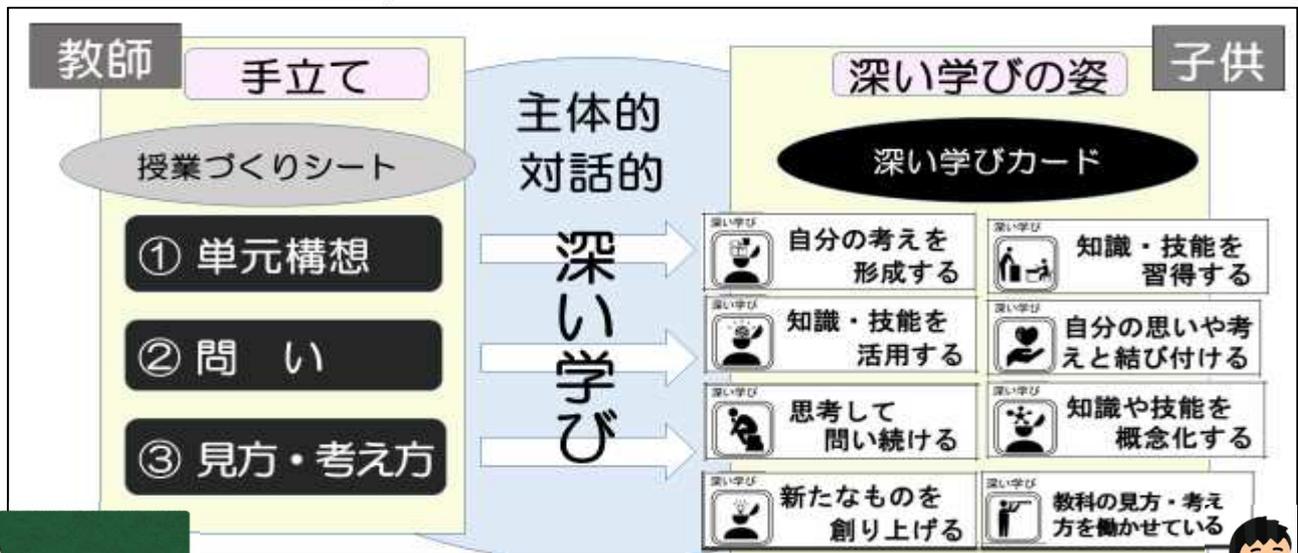
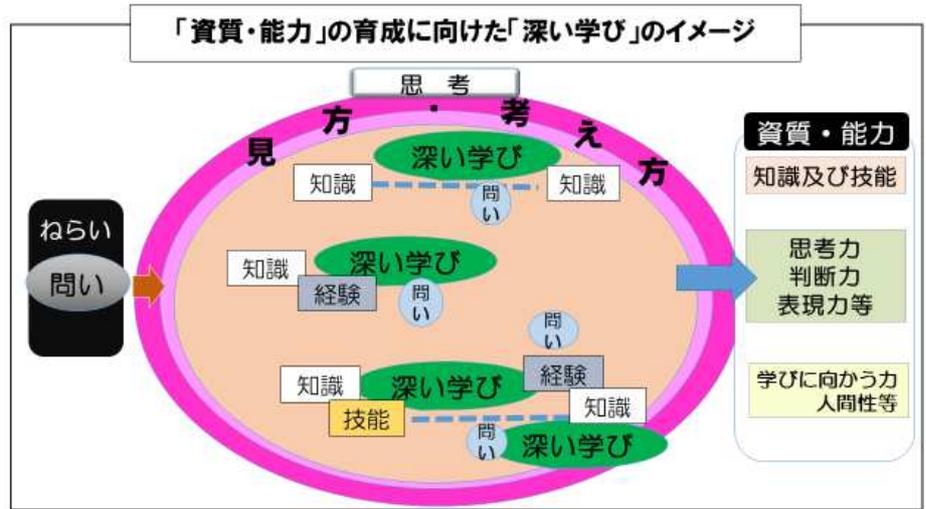


「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関する調査研究（1年次）
 —深い学びにつながる授業づくり—

令和2年度、小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。中学校・高等学校もそれに引き続いて実施されます。教育研修部では、『深い学びの姿がイメージしにくい』という現場の先生方の声を受け、授業改善のための視点として「子供の深い学び」の姿に着目しました。

『深い学びの姿』とは、どんな姿でしょうか。そして、いつ・どこで・どんなときに生まれるのでしょうか。

1年次は、理科と国語科の授業づくりを通して、子供たちの深い学びの姿と教師の手立てとの関連について探っていきました。



研究協力校として2つの小学校にご協力をいただきながら、研究を進めています。夏には、校内研修会を企画し、学校全体で、『深い学び』について考える機会をもちました。また、秋には、導入から終末まで、1単元を通して授業を観察し、子供の学びの姿を捉えました。

「問い」を中心とした教師の手立ては、子供の学びをどのように支えているのでしょうか。そして、どんな深い学びの姿が見えてきたのでしょうか。1年目の研究を通して分かってきたことを、報告します。

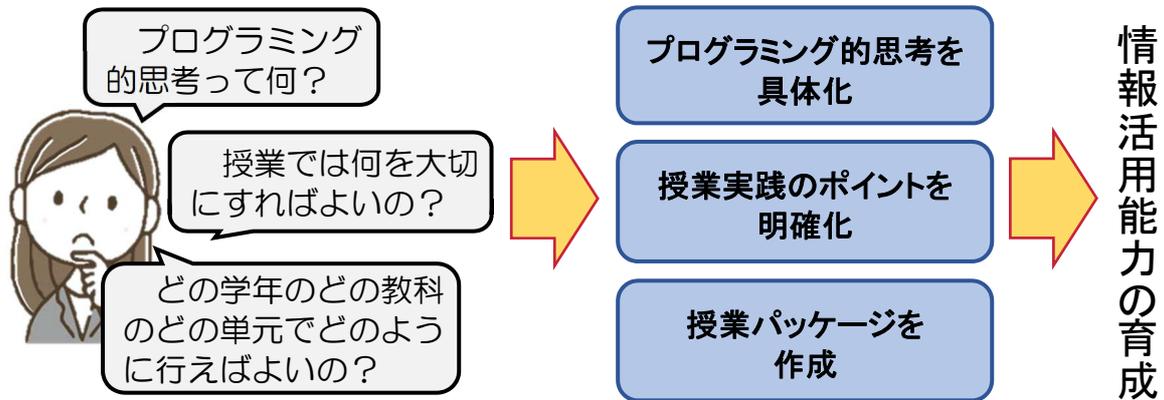
**小学校における 情報活用能力の育成に関する調査研究（1年次）
— プログラミング教育を中心として —**

小学校におけるプログラミング教育が全面実施となり、GIGA スクール構想によるICT環境の整備も進んでいます。その中で先生方からは、「プログラミング的思考って何?」「授業では、何を大切にすればよいの?」「どの学年のどの教科のどの単元でどのように行えばよいの?」などという声が聞かれます。

そこで、プログラミング教育を中心とした情報活用能力の育成に向けた授業実践への一助となることを目指し、次の3つの研究に取り組みました。

- ・ 「プログラミング的思考」を具体化
- ・ プログラミング教育の授業実践のポイントを明確化
- ・ 5年算数「正多角形」と6年理科「電気の利用」の単元におけるプログラミング教育の授業パッケージを作成

研究発表会では、「プログラミング的思考」と「授業実践のポイント」について示し、模擬授業や研究協力校での実践を基に作成した「授業パッケージ」を紹介しました。



6年理科「電気の利用」における授業パッケージ

指導案

プログラム

提示教材やワークシート等

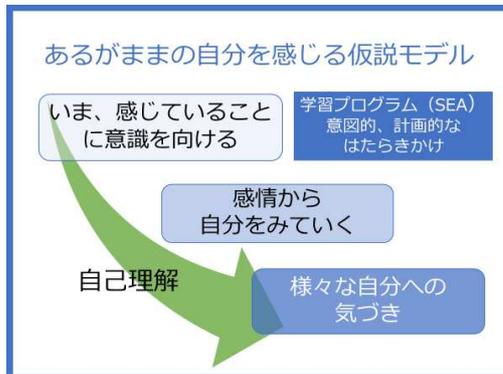
児童生徒の自己適応感を促す心理教育プログラムに関する調査研究（2年次）
 -あるがままの自分を感じる学習プログラムの開発-

児童生徒が、多様化、複雑化した社会の環境に適応しようと、「~でなければならない」などの考え方や捉え方に過度に意識が向き、なかなか自分をつかみきれない状況があると考えています。

そこで、自分の感情から自己を理解していく学習プログラムとして「セルフ・エモーション・アプローチ」（以下、SEA）を開発しました。

<いま、ここにある自分>が感じていることに意識を向け、感情から自分をみていくことで、自分なりの自分に気づいていきます。あるがままの自分を感じることで、自己理解が促される仕組みです。

【からだ】の様子、【こころ】の動き、大切にしたい【かんがえ】を感情へ意識を向けるための手がかりとしたいいくつかの活動（ワーク）を開発し、学校現場で使いやすいように、活用の仕方やワークのシナリオからなる「SEAワーク集」を作成しました。



セルフ・エモーション・アプローチ

<いま、ここにある自分>が感じていることに意識を向け、自分の感情から自分をみていくワーク（活動）からなる心理教育プログラム。いまの自分に気づいていくことで、自己理解を促していく。



いまの自分に気づくことで、自分がわかってくると、自分らしさを見つけられそうだな

SEAの主な特徴

特徴3

- すぐに取り組める
- ・展開の仕方をシナリオ化
- ・具体的な活用ガイド

特徴1

短時間でできる

5分が基本

特徴4

- 日頃の学習に近い展開
- ① やり方を知る
 - ② やってみる
 - ③ 感情をそのまま味わう

特徴2

教師と児童生徒が共に楽しみながらできる

現在
25ワーク

特徴5

- 学校や学級の実状に応じて取り組める
- ・自由なワークの選択、組合せが可能

研究協力校でのSEAの実践によって、児童生徒が自分の感情に意識を向け、感じていることを味わうことで、様々な自分に気づき、自己を理解していくことが分かってきました。また、教師も共にやってみることで、様々な児童生徒の姿に気づき、教師の児童生徒理解についても影響があることが分かりました。発表会の報告では、SEAの実践が、児童生徒、教師にどのような影響を与えるのかを明らかにし、実践事例についても紹介します。

SEAは、当教育センターの研修の中で活用するほか、学校支援訪問研修等を通して学校現場への提供を予定しています。